

都市空間の構想力

Study on the Design Potential in Urban Space

since 2006

西村幸夫 + 都市デザイン研究室有志

執筆コアメンバー：窪田亜矢・中島直人（現慶応SFC）・野原卓（現横国大）・
阿部大輔（現龍谷大）・中島伸・永瀬節治

無名の風景にも意志があり、企図があり、
物語があるという「事実」—

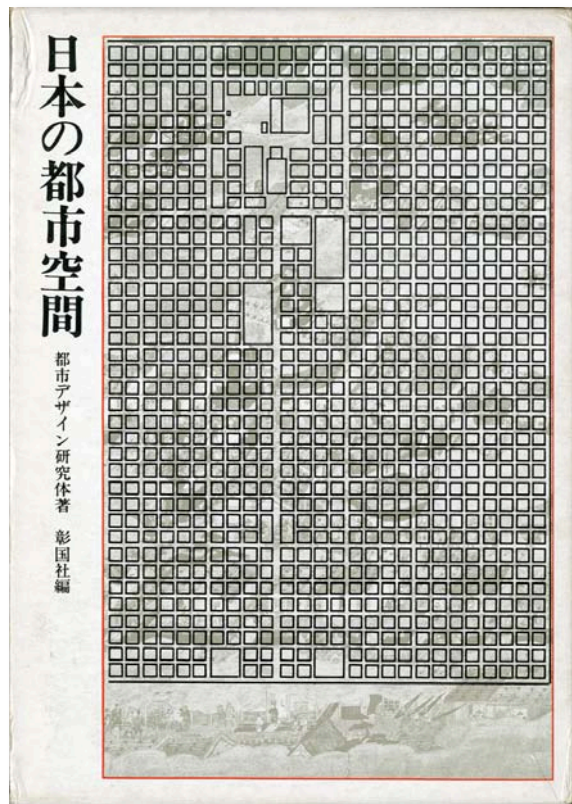
都市空間そのもののなかに積層された「意図」が織り込まれ、
あたかも共同の意志のように読める、そうした意志があることを示したい。

都市空間に内在している構想力を明文化することによって
都市空間の構成をよりよく理解するだけでなく、
都市空間を良い方向へ変えていく契機と可能性を
見いだすことができるのではないか。

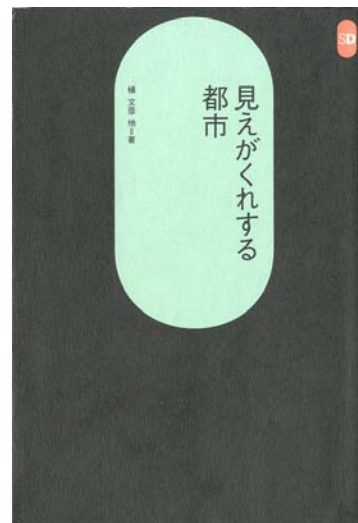
こうした作業は新しい時代における日本の都市計画の基本作業となり、
都市デザインの拠って立つ指標となると信じるからである。

西村幸夫「都市空間の構想力 序説」より

これまでの都市論・空間論を乗り越え、
新たな都市デザイン・まちづくりの方法論の確立をめざす



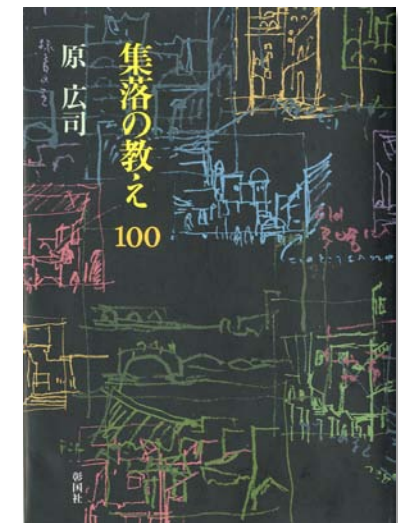
Urban Design Study Team (1968)



Fumihiko Maki (1980)



Hidenobu Jinnai (1985)



Hiroshi Hara (1998)

Previous Japanese urban studies

『季刊まちづくり』での連載

Serialization on the magazine “*Kikan Machizukuri*”
Case studies in Tokyo : 2007-2008

都市空間の構想力 - 空間文化の博物学 東京 -

13号 (2007) ~20号 (2008)

全8回

第1回：序説・本郷

第2回：地形

第3,4回：街路

第5回：対比

第6回：個と全体

第7回：情景（人為）

第8回：情景（自然）





【台①】 台町と菊坂を結ぶ一筋のみちを辿ると、微妙に軸線の振れた箇所遭遇する。
(下図のA地点)

台町・本妙寺跡（文京区本郷5丁目）
（102頁）

みちの形が漸進の
履歴を刻む

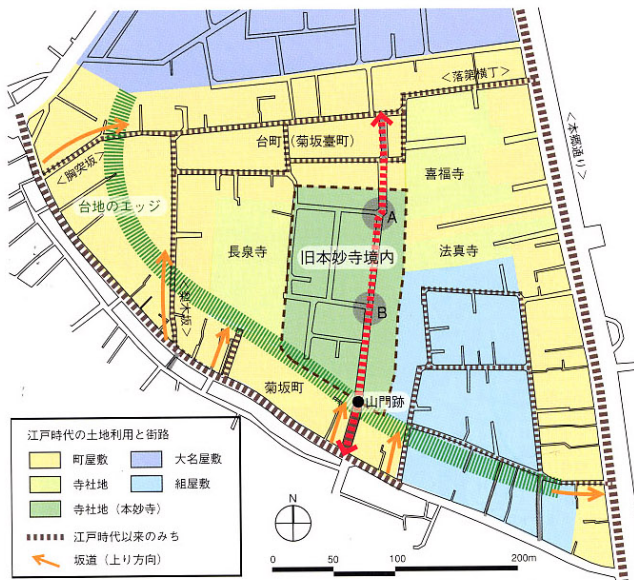
江戸時代、台町周辺には土地利用の異なる複数の領域が組み合わされていた。菊坂臺町と尾根道の本郷通り（旧中山道）、谷道の菊坂に沿って町屋敷が、南東の一角には組屋敷が、これらの領域に囲まれるように、内側に四つの寺院が存在した。このうち、菊坂から参道を引き込んでいた本妙寺は、明治42年に移転することとなり、当初の参道は徐々に延伸され、台町へとつながる一筋のみちができる。



【台③】 幅員の変化（B地点）



【台④】 日本妙寺参道



【台②】 台町と菊坂を結ぶみちが抜ける一帯は、かつて本妙寺境内であった。



【森①】 本郷通りから直交する宮前通りをまっすぐ進んでいくと、その先に三角形の膨らみのある不思議な六叉路にあたる。この叉路は、地域の領域性をつかむための「へそ」となる。

森川町（文京区本郷6丁目）
（101頁）

又路がまちの領域をつかみとる

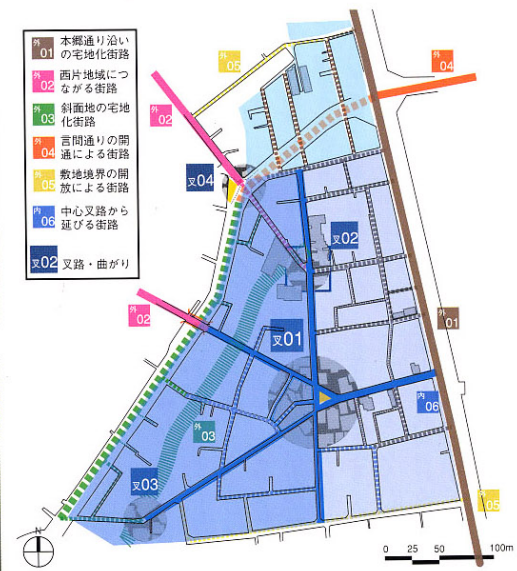
江戸期まで下屋敷であった敷地が、明治期以降の宅地化により都市に取り込まれ、地域のまとまりが見えにくくなった。しかし、中央の「又路」とこれを中心とした街路により、「宮前・宮裏」を始めとした領域が今も見え隠れする。また、又路や曲がり角が地域にもいくつか存在し、領域性をつかむ手がかりとなる。



【森③】 本郷館前の「又路」



【森④】 太米館前の「曲がり」

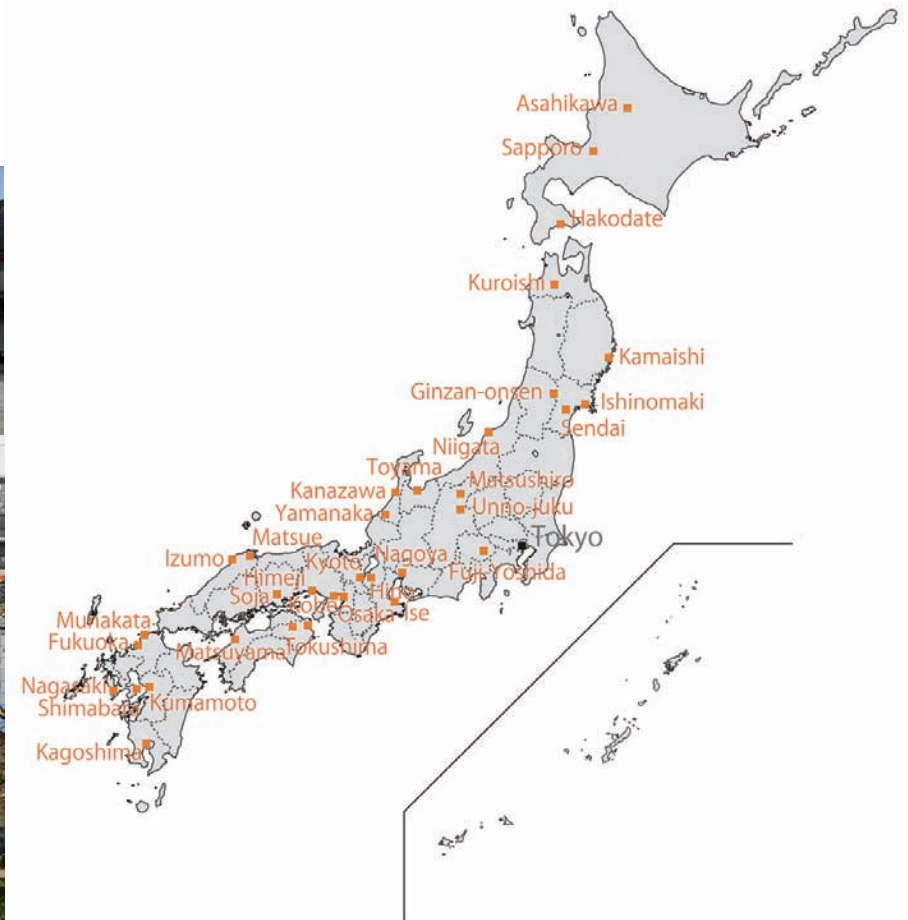


【森②】 中央の六叉路を中心として見えにくい領域が把握できる

- 2006年12月
オギュスタン・ベルク氏を招いての本郷まち歩き。
→プロジェクトの契機。（成果は連載第1回へ）
- 2007年～2008年
東京をフィールドとした調査と
『季刊まちづくり』への連載（全8回）。
※同時並行の「新宿プロジェクト」（新宿区景観計画策定に向けた調査）
→「あらゆる市街地に景観形成の手がかりが内在している」という
共通の視点。
- 2008年～2009・2010年
連載内容を下地に、出版に向けた全国調査の実施。
並行して、コアメンバー（西村教授+中島(直), 野原, 窪田, 阿部, 中島(伸), 永瀬）
により、本の全体構成の検討。

→目下、今年度の出版を目指して継続中。

全国調査を展開（2008-2009年度）



【目次】（2010年6月現在）

都市空間の構想力 序説

第1章 大地に構える

1-1.地形が都市を呼び寄せる

- (1)地勢への応答 (2)地形と神仏の居場所 (3)風景が語る意図

1-2.地形を都市に取り込む

- (1)生活の中の眺め (2)微地形が生み出す関係

1-3.地形が地域を枠づける

- (1)地形の連なり (2)強い地形

第2章 街路を配する

2-1.都市を編み上げる

- (1)地形や歴史を織り込む (2)目抜き通りを設える (3)グリッドを布置する

2-2.街路を場所として設える

- (1)辻に力を蓄える (2)道の形が界隈を枠づける (3)道を広場化する

2-3.街路を視線の中におく

- (1)街路空間を生み出す (2)眺望を取り込む (3)シーケンスを演出する

◇構想力を手がかりに、地域を訪ねる①：出雲

第3章 細部に依る

3-1.個のうちに全体を込める

- (1)全体性を担保する部分 (2)都市を映しこむ個 (3)風景をつかみ取る建築

3-2.個を都市に開く

- (1)視線の授受 (2)都市の挿入 (3)未完結の建築

3-3.細部に都市を纏う

- (1)意匠の散りばめ (2)素材がつくる風景

第4章 全体を統べる

4-1.都市を構造で押さえる

- (1)分割・分節の工夫 (2)点の抑え

4-2.個から全体を構成する

- (1)個性を織り込んだ協調 (2)類比や対比の仕掛け (3)ブリコラージュ

4-3.背景の仕組みに乗じる

- (1)制度のかたち (2)個性の法則 (3)自然の生成力

◇構想力を手がかりに、地域を訪ねる②：本郷

第5章 ものごとを動かす

5-1.空間で行動を誘導する

- (1)身体感覚に働きかける (2)回遊を促す

5-2.舞台を提供する

- (1)姿を変える (2)典景を培う

5-3.過去の遺制を転用する

- (1)都市の顔を創造する (2)都市空間を読み替える (3)都市の思想を伝える

第6章 時を刻む

6-1.時の輝きを生け捕る

- (1)光と影を映し出す (2)一瞬の情景を印象づける (3)夜の表情を彩る

6-2.季節を演出する

- (1)季節を散りばめる (2)季節の節目を告げる

6-3.場所の記憶に寄り添う

- (1)植物に風土を映し出す (2)原風景を感受する

◇構想力を手がかりに地域を訪ねる③：鞆

構想力本・予告編、近日掲載！！

予告編を『季刊まちづくり』31号
(2011年6月号)に掲載予定。

その後は…

年内の出版を目指し奮闘中。

■執筆

中島直人 (1、3章)、中島伸 (2章)、
野原卓 (4章)、窪田亜矢 (5章)、
永瀬節治 (1、6章)

■図版作成協力

安川千歌子 (1章)、前川綾音 (3章)、
高見亮介 (4、6章)、矢吹剣一 (4章)、
西村裕美 (2章)、吉田健一郎 (5章)

西村幸夫(東京大学教授)

ふたたび都市空間の
構想力を問う

特別
企画
続・都市空間の構想力

私たち東京大学都市工学科都市デザイン研究室のメンバーは本誌第13号(2007年1月号)から20号

種の必然とデザイン上の飛躍を伴って土地の形質を変えてしまうような力となるという意味での「構想力」

読者の前にアウトラ現在、単行本の形で。この小特集はそ